

178

2021. 2. 21

長崎郵趣



神代鍋島家と鍋島桂次郎 伊藤純英

三寒四温の暖かくなった陽気の中、雲仙市国見町神代地区の神代小路の緋寒桜を愛でに訪れた。藩政時代の街並みが保存されている一角の中心は神代鍋島邸である。なかなか訪れるチャンスがなかったが、邸内も含めて、ゆっくり見学してまわった。その中に鍋島桂次郎のパネルがあったので、表紙のカバーを紹介する。後掲の緋寒桜と鍋島邸の写真は伊藤撮影のものである。次ページの神代地区を見ると、まさに島原半島に打ち込まれた楔（くさび）ということができよう。

鍋島 桂次郎（なべしま けいじろう、1860年6月29日/万延元年5月11日-1933年/昭和8年1月30日）は、日本の外交官、貴族院勅選議員。神代鍋島家第16代当主。1884年（明治17年），外務省御用掛となり、外務属、交際官試補、外務書記官などを歴任。アメリカ、ドイツ、イギリスで公使館一等書記官として勤務した。1906年（明治39年），統監府書記官兼外務省参事官に任命され、統監府参与官、統監府外務総長、同外務部長を歴任した。1909年（明治42年），駐ベルギー公使に任命され、1914年（大正3年）まで務めた。1916年（大正5年），貴族院議員に勅選され、死去するまで在任した。

（Wikipediaより引用）

神代（こうじろ）の沿革

景行天皇の熊襲征伐の折、神代直という従臣がいて、肥後から海を渡り、この地に残って代々治めた。これが地名の縁起だと言われている。この地は島原半島と佐賀を結ぶ海路の要衝であったため、南北朝時期に神代貴益（こうじろたかます）が居城（神代城/鶴亀城）を構えた。

神代氏から鍋島氏へ

天正12（1584）年島原沖田畷の戦い（島津有馬連合軍と龍造寺隆信軍の戦い）で龍造寺軍についていた神代貴茂も滅亡。一時有馬氏が治めていたが、天正15（1587）年豊臣秀吉の島津征討。この時、鍋島藩初代直茂（なおしげ）は秀吉の許しを得て、旧神代家の領地を神代分藩とした。

慶長13（1608）年に神代領主となった鍋島信房（のぶふさ）以来、神代鍋島家が当地を支配してきた。以来幕末まで281年間、島原半島の中で唯一、佐賀鍋島藩の領地として存在したのである。その理由は有馬領の一角に鍋島領を入れることで、有馬氏や島津氏を牽制しようという秀吉の思惑。

神代小路（こうじろくうじ）の整備

鍋島藩領となった神代の地であるが、当初は領主は在住せず、遠隔的統治だった。4代目の領主鍋島嵩就（たかなり）からは神代に在住、家臣たちの居住のために一帯を整備したのが現在の神代小路のはじまりである。嵩就は造林に始まる林業や養蚕業などの士族就産と両立学校の教育環境の整備を行い、代々の領主が受け継いできた。そのおかげで、他藩と異なり、武家屋敷の荒廃も免れ、一帯には今も、江戸・明治・大正期の歴史的な建築物や、石垣や堀などが残っており、まるで時が止まったかのような風情ある町並みが広がる。

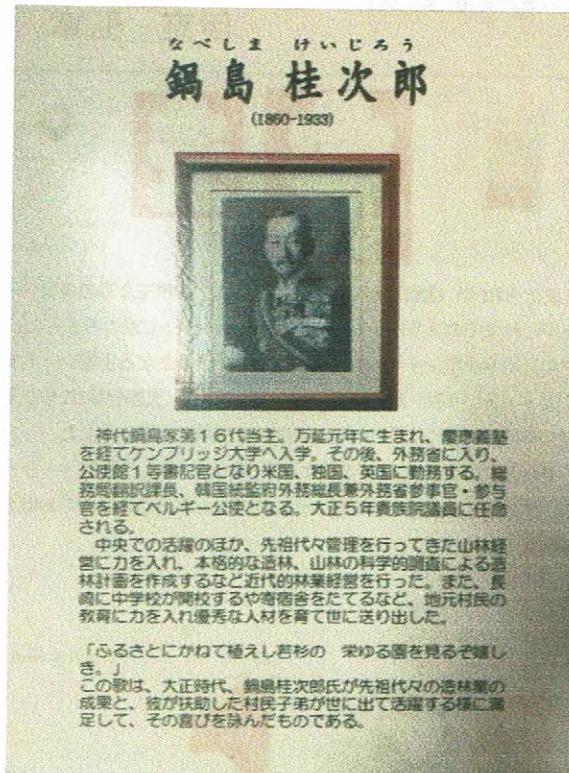
さて、このカバーのデータであるが、明治11年3月21日長崎（記番イウ一六号/KB1）
3月22日永昌（KG）
3月22日神代西村（KG）

となっている。

年表で確認すると、慶應義塾に入学以前、長崎英語学校在学中の時期であることが確認できた。

宛名表記は「長崎縣第九大区第四小区」となっており、いわゆる「大区小区時代」の封書である。消印の記番印といい、明治政府が効率化の名のもと中央集権強化を推進した時期である。しかしそれも長くは続かず、明治11年7月に廃止され、旧来通りの地名表記に戻ったのはご存じのとおりである。





■鍋島桂次郎略歴		
年号	西暦	事項
万葉 元年	1860	万延元年(1860)誕生
9年	1876	長崎英語学校入学
12年	1879	慶應義塾入学
13年	1880	島田大(なべしま ひろひろ)の随員として渡欧
15年	1882	英国ケンブリッジ大学入学
19年	1886	外務省勤務
20年	1887	ロンドン公使館勤務
21年	1888	山林350町歩を神代村へ寄付
27年	1894	日清戦争宣戰布告 広島大本營付
29年	1896	内閣總理大臣 伊藤博文(鷹賀・興・佐世保・台湾・清國)視察に随行
昭和 30年	1897	有松川宮威仁親王殿下ブリテン国王陛下即位60年 功典参列に随行
		伊藤博文歐州諸國派遣に随行
32年	1899	在米公使館一等書記官
33年	1900	独國在勤
35年	1902	英國在勤
36年	1903	英國在勤を免じ臨時外務省事務從事 總務局翻訳課長
37年	1904	清韓撫國派遣(内閣) 広島大本營勤務
38年	1905	特派大使として韓國派遣の秘密院議員の伊藤博文に随行 紙監修官兼外務省参事官
40年	1907	統監府外務総長兼外務省參事官・夢ち客
42年	1909	協定全権公使ベルギー駐在副使即付(内閣)
大正 5年	1916	勤務終身貴族院議員就任令
昭和 8年	1933	1月30日没する

□佐賀における幕藩体制

江戸時代末頃の藩領図

